

レモン凍害の被害にあった樹（幼木）の夏季管理

2026 年 6 月

1.凍害による被害樹の現状を観察しましょう

【① 主枝の先端の状況】

先端から新梢が発生し、伸長しているかどうか確認する
⇒発生していない場合は発生しているところまで切り戻す

【② 新葉の葉色の状況】

葉の緑色が濃くなっているか、葉脈にそって黄色くなっているか確認

⇒「2. 樹勢回復のための管理」を確認

【③ 新梢の発生状況】

主枝等に新梢が多く発生していないか確認

⇒ 「3. 新梢の管理」を確認

【④ 着花、着果の状況】

ほとんどの花が生理落果しているが、今後、夏花が咲くことが推測されます

⇒「4. 果実・着花の管理」を確認



2. 樹勢回復のための管理（特に葉色の悪い園は注意）

●尿素の散布

発芽した新梢の生育を促進させるため、尿素 500～1000 倍や液肥を月 2 回程度の散布を行いましょう。葉脈の周辺が黄化している場合は窒素以外の養分欠乏の可能性がありますので、JA 等に相談してください。

●施肥

春先に葉がないため、春肥を行わなかった園では施肥をします。

6 月中に夏肥 特選みかん配合 655 160kg/10a

9 月に秋肥	特選みかん配合 655	120kg/10a
--------	-------------	-----------

●病虫害防除

・6月～8月 ハモグリガ エクシレル SE 5000 倍 又は
スタークル顆粒水溶剤 2000 倍 と 尿素 500 倍を同時に散布する

- ・新葉は旧葉に比べてかいよう病の発生リスクが高いため散布する

7月 コサイド 3000 2000 倍 又は イデクリーン水和剤 500 倍

(薬害軽減のためクレフノン 200 倍を加用する)

3. 新梢の管理

主枝から発生した新梢は、樹形を乱す恐れがあるため、6月に直上する新梢の芽かきを行ってください。または、再発芽が心配なくなる9月に剪定しましょう。

また、側枝として利用できるものは、8枚～10枚で摘心すると充実した側枝となります。

4. 果実・着花の管理

これまでの花は生理落果でほぼ結実していない状況ですが、7月以降、夏花の着花が予想されます。レモンは8月中旬で3.3 cm以上の直径がなければ、M以上の果実になりません。生理落果しなかった7月以降の果実は小玉果しかできないため摘果しましょう。

